

グローバル・アピール 2022

ハンセン病に対する
スティグマ（社会的烙印）と
差別をなくすために

近年、病気への恐怖が、人々の行動様式を変え、社会に大きな分断をもたらし、格差を拡大させています。

ハンセン病もそのように人々から恐れられてきました。

ハンセン病は世界で最も古い感染症のひとつです。かつて感染への恐れから、人々はハンセン病を忌むべき神罰や呪いであるとし、その考えがスティグマと差別を生み出しました。

現在は特效薬により治りますが、古くからの言い伝えが信じられていたり誤解が残っていたりします。

正しい知識が普及していないため、未だに差別がなくならない中、新型コロナパンデミックは彼らをさらに厳しい状況に追い込んでいます。

私たち財団は、社会的課題の解決に貢献することを使命としています。

公正で平等な世界を築くために、声をあげ行動することは、私たちの活動の核となることです。

ハンセン病当事者とその家族に対する差別は人権問題です。

誰であっても病気を理由に差別されることがあってはなりません。

私たちはフィランソロピーの精神に則り、誰もが基本的な権利を奪われることなく、

尊厳ある生活を送ることができる社会の実現に賛同します。



グローバル・アピールについて

グローバル・アピールは、ハンセン病の啓発と、当事者に対する差別の撤廃を呼びかける取り組みです。2006年に WHO ハンセン病制圧大使・日本財団会長の笹川陽平が開始して以来、毎年世界ハンセン病の日に合わせて、ビジネス、教育、医療・看護、人権、法

など異なる分野から影響力のあるパートナーと共に、差別撤廃の宣言を発表しています。第17回目となるグローバル・アピール2022は、世界のフィランソロピー財団の賛同を得て発表されています。

**SASAKAWA
LEPROSY
HANSEN'S DISEASE
INITIATIVE**